

住民参加の歩道整備とまちづくりへの展開に関する研究 国道16号電線地中化と横須賀市追浜大通り商店街

関東学院大学 学生会員 山村 明子
佐治 史恵
関東学院大学 正会員 昌子 住江

1. はじめに

今回の研究対象地区である追浜地区は、神奈川県横須賀市の北部にあり、横浜市に隣接している。臨海部の工業地帯には、日産自動車追浜工場、住友重機等、日本有数の大企業や(独法)海洋研究開発機構といった国際的な研究機関が立地している。丘陵部の住宅地湘南鷹取は市内でも優良な住宅地として知られるが高齢者率が高く、その地形的な条件からくる生活課題が問題である。研究室では2004年より、追浜大通り商店街で空き店舗を活用したまちなか研究室を拠点に、地元の商店会や行政との協働による商店街の活性化と追浜地区のまちづくりに取り組みつつある。

2. 国道16号の電線地中化と舗装の復旧

現在追浜では国道16号電線地中化に伴う舗装復旧工事が予定されている。2005年度内に国道16号電線地中化工事が行われ、2006年度には追浜大通り2,3丁目商店街を対象とした舗装の復旧工事が予定されている。工事を担当する国道交通省関東地方整備局横浜事務所(以下横浜国道)は、歩道整備についての住民要望をできるだけ取り入れるようにしていくという姿勢である。舗装については横須賀市が市の景観整備方針に基づき、落ち着いた色彩となるように横浜国道と調整している。市の方針として余り舗装が目立つのは好ましくないが、商店街の特徴を持たせるために部分的にアクセントカラーを入れる程度なら良いのではないかと考えている。

3. 研究の目的

本研究では住民要望の取りまとめと、これにもとづく提案を行いつつ、住民参加の歩道整備のプロセスと手法について検討を行うことを目的としている。追浜地区ではこれまで市民による目立ったまちづくり活動がなかったことから、今回の試みをまちづくりの第一歩にしたいと考えたのである。

4. 研究の方法

現在の歩道の現状調査として商店・住民、歩行者を対象にアンケート調査、交通量調査を行い、それをふまえた上で3回のワークショップを行った。第1回のワークショップでは住民からの意見を聞き、現状の問題点を把握した。第2回ワークショップでは昼夜における歩道の景観の違いや、歩道上の障害物の実態、ストリートファニチャーの例などの説明をして意見交換を行い、第3回は今までのワークショップで出た意見を素に素案を作り、提案提示として行った。

5. 商店・歩行者アンケートと交通量調査

5-1. アンケート調査 アンケート票の配布は、工事の対象範囲内にある商店・住宅および歩行者とし、調査期間は9月9～17日とした。商店・住宅には直接配布、回収を行い、回収数は130票となったが、歩行者への聞き取り調査は協力者が少なく、30名ほどの回収となった。現在の歩道については段差や凹凸が気になるという意見が多く、商品のはみ出しについても商店・住民、歩行者共にやめて欲しいという意見が多数あった。歩道に関する要望については、雨天時でも滑りにくい舗装にして欲しいという意見や、バリアフリーに関する要望もあったが、これらについては今回の舗装復旧工事でアスファルトから透水性平板に変わることやバリアフリー化されることで解決されると思われる。また、今後の追浜のまちづくり全般に望むこととしては駐輪対策のことやゴミ問題等の美化についての要望もあり、その中でも将来的には追浜を活気のある明るい街にして欲しいという意見が多かった。

5-2. 交通量調査 歩道をどのくらいの人が通行しているかを知るために歩行者交通量調査を行った。商店街の4箇所にポイントをおき、それぞれに調査員を

キーワード 住民参加, 電線地中化, 歩道整備, まちづくり

連絡先 〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1 関東学院大学工学部 都市計画研究室 TEL 045-786-7753

配置して歩行者をカウントした。測定項目は、歩行者（男性・女性）、自転車（男性・女性）、乳母車、車椅子、手押し車などその他の計5項目に分類した。日時は10月11日（火）と10月15日（土）の平日と土日の両日を設定し、時間は共に17時～22時までの15時間を計測した。この調査により、通勤・通学や買い物等による利用状況を把握した。高齢者が目立つ地区があるが、乳母車の通行も少なくないことが分かり、今後の商店街の再生を考える時に配慮すべき点ではないかと思った。

6. 歩行空間を考える住民参加のワークショップ

6-1. 第1回, 第2回ワークショップの実施

・第1回日時:平成17年10月29日（土）

15:00～（於エルシャンテ追浜）

参加者：一般参加者8名, 学生7名, 教員1名。

まず横浜国道から国道16号電線地中化と舗装の復旧事業についての説明横須賀市都市景観推進課より横須賀市の景観まちづくりについて説明を受けたのち, 2班に分かれてワークショップを行った。

・第2回日時:平成17年11月23日（祝）

15:00～（於エルシャンテ追浜）

参加者:一般参加者16名, 学生9名, 教員1名。

第2回は新しい参加者の為に今までの経緯についての説明後, 3班にわかれて意見交換を行った。

・第1回, 2回ワークショップのまとめ

舗装は明るい色彩のものに, 商店街の歩道には地域の特性を表すサインを入れたい, 横断防止柵は他の施設に代替することができないか, 他にも自転車駐輪が邪魔である, アーケードは将来的に撤去したほうが良いといった意見も出された。また, 商店街のアーケードが切れたところからは歩道が暗くなる為, 防犯等の設置について強い要望が出された。

6-2. 第3回ワークショップ 第1, 2回のワークショップではなかなか人数が集まらなかった為, 第3回目は開催方法を変えた。すなわち, 今までのワークショップで出た意見をまとめて素案を作り, 提案提示としてポスターセッション方式にした。日程も平成18年1月19日～21日の3日間で, 14:00～19:00まで入退場自由という形にした。第3回で出た主な意見をまとめると, シンボルサインはおっぱまワインやあんずの花などをデザインに用いたものが良いといっ

た具体的な要望や, 前回と同じく自転車駐輪問題等についての意見も出た。第2回ではバス停で待つ人はいないということから屋根は不要という意見が出ていたが, 第3回で改めて聞いてみたところ前回の参加者以外の方からも屋根は必要であるという意見を多数聞くことができるなど, 新たな発見もあった。しかし, 3日間の参加者は約30名超程度であったが, 会場を覗いても声をかけられると通り過ぎてしまう人も多く, 地域への浸透は今後の課題である。

7. 住民要望をまとめた提案の骨子

住民要望をとりまとめた提案を2月中旬に横浜国道事務所と横須賀市景観推進課に提出した。その骨子は以下の通りである。

・舗装は彩度を落としたようなベージュ系, 煉瓦系のような色彩のものにし, 歩道のところどころに追浜の特色を表すようなシンボルサインを入れる。

・サインは例えば追浜商店街の特産品であるおっぱまワインや, 市民活動で植えているあんずの花, 海洋研究開発機構の潜水調査船であるしんかい6500等。

・バス停は, 現在は屋根もベンチもないという状況の為, シェルターを設置する。

・車道には照明があるものの歩道には街灯がなく, 商店街のアーケードが切れたところからは歩道が暗くなる為, 防犯上からも街灯を設置する。

8. まとめ

提案について横浜国道事務所からは簡単な回答を得ることができた。今後, 横須賀市とも相談の上, 夏までには正式な回答が来ることになっている。今回の試みについてまとめると以下のようなになる。

・住民要望を入れたいと考えても地域に入る手がかりがない行政側と, 要望があっても伝える機会や手法を持たなかった地域住民との間を大学が繋ぐという形になった。

・地域への浸透はまだ課題だが, 今回のことがきっかけとなり, 住民、行政、大学の協働で今後の追浜のまちづくりへと繋がるようにしたい。

謝辞

本研究では, 追浜商盛會理事長の福島仁氏, 横須賀市景観推進課の長島洋氏, 横浜国道事務所戸澤辰美氏にご協力いただきました。ここに感謝の意を示します。